



## デンタリズム・スペシャル対談

参議院議員・民主党歯科議員連盟事務局長 歯科医師

衆議院議員・民主党歯科議員連盟会長

おお く ぼ ゆき しげ

お ざわ さき ひと

# 大久保潔重 × 小沢鋭仁

昨年、歯科口腔保健推進法が国会で成立した。法案成立が困難といわれるねじれ国会の中での快挙である。

この法案の成立は、歯科業界にとって、どのような意味を持つのか。

中心となって法案成立まで導いた民主党の歯科議員連盟会長の小沢鋭仁衆議院議員と、  
歯科医師でもあり同事務局長の大久保潔重参議院議員の二人にお話を伺った。撮影/中島繁樹

——まずは昨年の「歯科口腔保健法」の成立おめでとうございます。率直な感想をお聞かせください。

小沢 民主党は、野党時代から法案を提出してきましたが、当時は思うようにいかず、政権が交代してようやくの成立です。政局の中で一時成立が危ぶまれた時期もありましたが、大久保先生や川口先生、水野先生や西村先生など、歯科出身の議員の皆さんをはじめ、日本歯科医師会や日本歯科医師連盟の皆さんとも一致協力し、なんとか法案の成立を見ることができました。非常に感慨深いものがありますね。

日本歯科医師会の大久保会長の言葉を借りれば「歯科医師会90年の悲願」の達成ということになります。

大久保 私は平成19年11月に、野党時代の「次の内閣」の医療介護作業チームの歯科医療担当委員会で、本法案を議員立法で策定したのが最初のきっかけでした。野党時代は、2度廃案になりましたが、今回は全会一致で成立したことが何より嬉しいですね。

——小沢先生の調整力が大きかったとも言われていますが、議連の会長となつたきっかけは？

小沢 僕が歯科議員連盟の会長になっているのは、やとわれマダムのようなもの（笑）ももとは参議院の桜井先生が会長として熱心に取り組まれてこられたのは歯科医師の皆さんもご承知のことだと思いますが、桜井さんが財務副大臣に就任される際に、「小沢さんやつてもらえないだろうか」という相談がありました。大久保さんたち歯科医師の先生方もバックアップするし、奥さんも歯科医師だしと言われてね。

うちの家内は議連のオブザーバーとしても関わっていて、5、6年前にはかなり具体的な提言を出させていたでいて、桜井先生とも一緒に一生懸命やっていましたから、その分、理解が早いと思われるたのかも知れません。

ただ、私の会長としての役割は、政策は歯科出身の先生方にまかせ、会全体の運営や、各党との折衝などが中心です。今回は法案の話もありましたから、国対（国会対策委員会）なども随分と話をしましたね。

——改めて歯科口腔保健法のポイントを教えてくださいませんか？

大久保 歯科医療や歯科保健の政策を進めていく上で、今までは、

根本の基本法、理念法がなかった

のですが、この法案が成立したことにより病気になる前に予防をするだとか、早目に病気を見つければるよう生涯に渡って隙間のない検診システムを構築するだとか、そういうことを推し進めていけるようになるわけです。

小沢 高齢化社会における、高齢者に対する歯科医療、または障がい者に対する歯科医療などを充実させていくというようなことも、この基本法のもとで道筋をつけていくことができる。

大久保 口腔と全身との関係についても研究を進めていって、歯科から国民の健康に大きく貢献していくという法案ですからね。

例えば、小さい頃は歯に関して、背景の違う様々な法律があります。母子保健法や児童福祉法、学校保健法などです。でも高校や大学を卒業し、社会に出た後は、歯科については何もないのです。

労働安全衛生法の中には健康診断はあっても、歯科検診は含まれていない。また、保育園でも無認可の保育園では手当がされない可能性もありますが、そういったものの全てを網羅していくというものです。

——大久保先生は歯科医師として

も、今後の議連の活動に一層熱が入りそうですね。

大久保 そうですね、医科と連携して介護施設に歯科の専門家を入れているとか、あるいはNSTといわれる栄養サポートチームの中に歯科医師を位置付けて入れていくとか、そういう具体的な政策を進めていくという段階に、議連の活動は入ってまいりますね。

小沢 基本法ができましたから、それに基づいて、国も、地方自治体も、具体的な施策を推進していかなければならないし、我々政治家も精一杯バックアップしていく

という事です。

——歯科業界には様々な課題がありますが、例えば私立の大学の定員割れの問題などについてはどのように捉えていらっしゃるでしょうか？

小沢 議連の中でも話題にはなっていないですね。医療知識や医療技術を一定水準に保つためにも、歯科の過剰問題については問題意識を持って扱っていききたいですね。

——TPP（環太平洋経済協定）への交渉参加に関する話題も、医療現場では関心が高いようですが、小沢 そうですね。TPPは農業

問題であり、金融問題であり、医療問題でもある。

ただ、TPPについては、交渉に参加するかどうかを決めた段階で、まだ中身については何も始まっていない状況です。交渉過程の情報がいまあまり開示されていないというのと、実際の議論に入っていないという両面があるのではないのでしょうか。いずれにしても国民の皆さんに情報がいきわたった上で判断をしてもらおうというのが、個人的には重要だと感じています。

交渉に参加するというのは、あってもいいけれど、日本の立場をどこまで世界に発信できるか、主張できるかが重要でしょうね。

大久保 米韓のFTA（米韓自由貿易協定）などの中身を見ていると、日本の国民皆保険制度が崩れていくんじゃないかと、危惧される声があるのは事実です。

混合診療が解禁されると、どうしても公的な保険診療は縮小しますし、そこへアメリカなどの民間保険がどんどん入ってくるなんてことになる、医療提供側からの反発や、保険関係者の抵抗もあるでしょうね。

——歯科は診療報酬がプラス改定でしたが、まだまだ医科歯科では点数格差が大きいです。歯科の技術料はなぜ低いのでしょうか。

小沢 僕の家内なんかは保存が専門なんです、保存の治療なんていうのはいくらやっても点数が上がらない。大病院だからいいんだけど、保険点数については不満を言っていますね。

大久保 初診・再診を含めて非常に低いですね。ドクターズ・フィーで、診断をすることを評価してもらえないような保険制度というものが必要でしょうね。病気になる前に、予防を手助けすることに

に対する評価です。歯科口腔保

### 「高齢者や障害者に対する歯科医療も『歯科口腔保健法』のもとで道筋を」

Profile 小沢鋭仁（おざわ・さきひと）  
1954年山梨県出身。1978年東京大学法学部卒業後、埼玉大学大学院政策科学研究科にて政策研究を行い政治学修士を取得。1981年東京銀行入行。1993年衆議院議員（山梨県全県区）初当選。鳩山内閣、菅内閣で環境大臣（第13代、14代）を歴任するなど数々の要職に就く。民主党山梨県連顧問、政策集団国家研会長、裁判官訴訟委員会委員長、憲法審査会筆頭幹事、民主党歯科議員連盟会長。



Profile 大久保重雄(おおくぼ・ゆきしげ)  
1966年長崎県出身。1994年長崎大学歯学部卒業後、東京、神奈川で勤務医を経て福岡市で約6年間、地域歯科医療に携わる。小沢一郎政治塾一期塾生。2003年長崎県議会議員に初当選。2007年参議院(長崎選挙区)に初当選。医療介護改革作業チームや、障がい者政策作業チームなどに所属するなど、医療従事者としての経験を活かした活動も多い。民主党歯科議員連盟事務局長。

## 「日本の公衆衛生や歯科医療の技術を もっと世界に向けても発信していければ」

健法が、今後後押しになると思い  
ます。

小沢 民主党が政権をとった2年  
前の診療報酬の改定では、歯科関  
係は相当伸びた。これは日本歯科  
医師会の大久保会長などの努力も  
大きかった。今回ももちろん、要  
望はありましたが、そんなにうま  
くいかないんじゃないかと言われ  
ていましたが、どうにかプラス改  
定となりました。

我々としては「公平公正にやっ  
たらそうになりました」というだけ  
だと思っっていますが、民主党の歯  
科議員連盟のメンバーにしても衆

参合わせて174名ぐらいいたと  
思います。一大勢力ですよ。彼  
らが私たちの要望している内容に  
対して、かなり賛同してくださっ  
た面も大きい。地元で歯科の先生  
方の話をよく聞いてきているのだ  
と思います。

——歯科については政権交代の恩  
恵が大きかったといえるかも知れ  
ませんね。

小沢 前政権では医科がずっと伸  
びていく中で、歯科が下がり続け  
てきました。今回は、わずかでも  
医科を上回る成果を出せたわけで  
すからね。

それと、東日本大震災で歯科の  
皆さんたちが本当に頑張って活躍  
してくださいました。ご遺体が並  
ぶ中での身元確認でしょう。なん  
とか一人でも多くの身元を判明さ  
せたいという一心で、辛い作業に  
あたっていたいただきました。

——そういうようなことも、ある意  
味では、社会全体で歯科に対する  
評価が上がって、それが予算や点数  
に反映されたということが言える

のではないのでしょうか。

——最後に、本誌をご覧になって  
いる歯科医師の皆さんに、協力を  
求めていきたいことなど、何かメ  
ッセージがありましたら。

大久保 やっぱり保険診療という  
のは、診療報酬の改定一つとって  
みても、歯科医師会から代表を出  
して、いろんな積み重ねによって  
成り立っているところがあります。  
政治は生活にも、口腔の健康にも  
大きなかわりがあるので、歯科  
医師の方々にも、もっと積極的に  
参画していただきたいと思いま  
すね。

また、今後の議連の活動の一つ  
に、日本の歯科医師の海外での貢  
献というものを考えています。私  
自身も議員になってからラオスや  
ケニアなどで診療をしてきた経験  
があります。大学単位とか、個  
人でもネパールとか、海外で貢献  
されていらっしゃる方がいらっし  
やるので、政治的にバックアップ  
していければと思っっています。日  
本の公衆衛生や歯科医療の技術を、  
世界に向けても発信していければ  
と思います。

小沢 僕は二つ、要望も含めて申  
し上げておきたいんだけど、一つ  
は、政治の役割というのは日本全

体の資源配分を決めていくという、  
予算の配分が大きな仕事ですが、  
日本の一人あたりの医療費は、先  
進国の中では決して高くはないわ  
けです。

私としては、ヨーロッパ型の高  
福祉社会を目指したいと思ってい  
ますが、そういう観点から言えば、  
税の負担なども少ししていただき  
ながら、医療のベースをもっと底  
上げしていくという方向性を持ち  
たいし、こういったことに賛同し  
てくださる歯科医師の先生方には、  
もっと政治に関心を持っていただ  
きたいと思っますね。

あと一つ現場の話でいうと、訪  
問診療の現場などで、介護と歯科  
医療の連携などが、重要になって  
きているんじゃないでしょうかね。  
歯科医師の皆さんには大いに期待  
しています。

